Gakusei Tantousha Hou

学生担当者報 －Vol.340－ 6

発行／天理教学生担当委員会　発行責任者／吉川万寿彦　編集責任者／松村孝吉
[TEL]0743-63-1511（内線5817）（直通）0743-63-2489　[FAX]0743-62-5780
[E-Mail]tsa@tenrikyo.jp　[TSA website]http://tsa.tenrikyo.or.jp

立教178年
平成27年5月25日発行

学修のムシになって取り組む ～共にお育ていただく学修へ～

出版部　委員　中田　祥浩

もうすぐ、燃えるような輝く太陽と共に、学生生徒修養会高校の部がやって来ます。学修という響きを耳にしただけで、心が高揚してしまうのは私だけでしょうか？

真夏のおぢばで過ごす学修の一週間、仲間と共に尊き教えを学びながら信仰の素地を手にすべく、感動の夏物語が今年もそこかしこに展開されることでしょう。教会長さんや親に勧められ、気が向かぬまま参加した生徒も、感激の涙を流して修了できるのは、スタッフの誠真実の賜物と、いつも実感させられます。それは、生徒たち本人の気持ちや理由は様々であっても、参加することになったのは親神様のお引き寄せに他ならないと思い、お預かりする生徒が一人も漏れることなく最終日を迎え、心から喜んで帰ってもらいたい、将来お道につながる大切な人材に育ってもらいたいと、スタッフそれぞれが真剣に生徒と向き合って、心血を注ぐからでありましょう。

私は例年、講師に関わる立場で務めさせていただいておりますが、学修の柱の一つであるレクチャー（授業）を担う講師は、6月の事前研修会から本番までの間、懸命になってレクチャーの準備に取り組みます。真柱様は昨年の係員結団式に於いて、「お道の教えについて理解が進む、分からなかったことが来る前よりも分かるようになったというような、そういうことが何か一つでもあって、それを持って帰ってくれたらと思うのであります」と仰せられました。講師たちは、何とかして教えを生徒に伝えようと、準備期間はもとより、本期間に入っても、寸暇を惜しんでその準備に当たり、また同時に、自分自身の信仰を伝えるためには理づくりも大切と、本番を目指して私たちの本分であるにをいがけ・おたすけにも、精一杯つとめて臨んでいるのです。

教室で生徒と初めて会う初日の朝、講師の顔にはこれ以上無い程の緊張感がみなぎっています。それは、大きな責任と使命を感じているからであります。このような思いでいるのはもちろん講師だけでなく、他の多くのスタッフも同様です。全力を尽くし、共にお育ていただこうというこの姿に、きっと親神様はあの感動のフィナーレをお与えくださるのだと思います。

今年も学修のムシたちが、心を高揚させながら生徒を待ち構えています。成人の場である学修に、一人でも多く送り出してくださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

立教178年　学生担当委員会　活動方針
『おたすけの喜びを学生に！』～あらきとうりよう・みちのだいとして共に育とう～

報告

四月例会

去る4月25日教庁4階講堂に於いて「四月例会」を開催。出席は40教区、113直属。

各地の動き

【直属学生層育成者講習会】
・河原町　4月14日　大教会　100名
　飯降委員出向
・防府　4月16日　大教会　150名
　松村副委員長出向

人事

【教区学生担当委員長辞令交付】
《立教178年4月25日付》
・川村清忠（青森教区）
【直属学生担当委員長辞令交付】
《立教178年4月25日付》
・扇谷　剛（名京・名青）
・旭　正孝（川之江・御空）

業務記録

《立教178年4月16日～5月15日》

4月16日　学修高校の部研究室会議
17日　教祖130年祭
　学生おぢばがえり大会
　プロジェクト会議
20日　事務局連絡会
21日　教祖130年祭
　学生おぢばがえり大会
　プロジェクト会議
22日　春学プロジェクト会議
　『Happist』納品
23日　『Happist』梱包
24日　学修高校卒業生コース会議
　担当者活動部部会
25日　委員会
　例会
　広報室会議
　出版部部会
5月8日　学生連絡会
11日　学修部部会
12日　学修高校の部研究室会議
　ビデオチーム会議
13日　委員会
　まなびば研究室会議
　屋外プログラム会議
　担当者活動部部会
　人材育成部部会
14日　委員会
　要員育成室会議
　学生部部会
　出版部部会
15日　教祖130年祭
　学生おぢばがえり大会
　プロジェクト会議

TSA
http://tsa.tenrikyo.or.jp

学生生徒修養会五十年の歩み

はじめに

昨年、「学生生徒修養会」は発足五十年という節目を迎えた。「五十にして天命を知る」とは、「五十歳になって、天から与えられた自分の使命を悟るようになる」という意味のことわざだが、これからの学修に与えられている「使命」を考えるためにも、これまでの歴史を振り返り、元の思いを再確認することは、非常に有意義なことである。そこで、学修特集ページ「学生生徒修養会五十年の歩み」を掲載し、学修が更に良いものとなるための一助としたい。

学修の前身「おぢば夏期修養会」開催

学生生徒修養会の前身は、昭和十二年（立教百年／一九三七年）天理教いちれつ会の主催で開催された「おぢば夏期修養会」である。

当時、いちれつ会総裁でもあられた二代真柱様を中心に熱心に取り組まれた問題の一つに、日頃教祖のお膝元で学ぶことのできない教内子弟に対する道の仕込みがあった。そこで開催されたのが、親里管外学生を対象とした「おぢば夏期修養会」である。以降、戦時中の悪条件の中にあっても、「天理教学生修練会」、「教内子弟修練会」の名のもとに開催されたが、戦況悪化と共に一時中断することとなった。

終戦後の昭和二十三年、一れつ会扶育生を対象に「管外高校生修養会」として復興し、その良い結果を教内に広く及ぼすべきであるとして、昭和二十五年からは、一れつ会生以外の参加も認められるようになった。その後、「管外大学生（高校生）おぢば修養会」として連年開催し、参加者はもちろん父兄及びその周辺にも好影響を与え、縦の伝道の一環として教内の重要行事の一つと数えられるようになっていったのである。

「学生生徒修養会」開催

修養会の内容は、主要教理の概要、教祖伝、天理教会史やひのきしんなどであった。大学生と高校生では内容は異なっていたが、それぞれでは毎年同じ事を繰り返した。普段、ひたすら道を求めるという機会の少ない管外の学生にとって、年一回のまとまった仕込みの場は、自ら積極的に道を求める動機、また楽しみの機会となり、相互の団結を固めるきっかけとなった。次第に回を重ねての参加者が増加し、修了者は全国各地で信仰を同じくする親しい仲間として、学校卒業後も互いに励まし合いたすけ合う姿をもたらすようになっていった。

そんな中、二代真柱様は、当時の表統領土佐忠敏先生及び表統領室長であり一れつ会理事長であった永尾広海先生に対し、

「同じ事を繰り返すのではなく、それを積み重ねておさづけを頂いた暁には、教会長の資格を与え得る教人に迄育つ事の出来るよう内容を遂次高めて楽しみを与えるように」

とのお言葉をかけられた。また、昭和三十九年一月五日の年頭会議において、前年に初代真柱様の五十年祭をつとめられたことに触れられ、信仰の親子伝承の重要性と縦の布教の大切さについてお仕込みくだされた。これを機に種々検討が重ねられ、昭和三十九年、遂に「学生生徒修養会」が始まることになったのである。教祖八十年祭を二年後に控えた八月十日のことであった。

（次回に続く）

第五十二期 天理教学生会 委員総会 開催報告

五月三日から五日にかけて、第十二母屋、東右第一棟を会場に、「立教百七十八年天理教学生会委員総会」を開催しました。

ゴールデンウィークに集まった学生百六十九名（三十三教区七十四名、二十六直属四十二名、スタッフ五十三名）は、東講堂での開会式から始まる三日間のプログラムに臨みました。

初日の夜には、学生担当委員会深谷太清委員より「教祖の親心」というテーマで講話がありました。教祖百三十年祭の年祭活動仕上げの年、参加者たちは改めて教祖のひながたを学び、教えを実践することの大切さを再確認しました。

二日目は、朝から夕方にかけて、「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」「第五十二期天理教学生会活動方針」についての審議が行われ、学生たちは活発な意見交換の時間を持ちました。「大会参加者一万人という大きな目標を掲げるからこそ、今まで声を掛けられなかった人に対しても、一歩踏み出して声をかけることができる」、「一人の人につながってもらうだけでも大変なこと。数にこだわり過ぎて、一人ひとりを大切にする心を忘れてはならない」、「目の前の一人を大切にし、まず我々一人ひとりが精一杯動くことが、一万人というこれまでにない大勢の仲間とおぢばに帰り集えることにつながる」など、学生たちは真剣な議論を重ね、採決の結果、第五十二期活動方針（六-七頁）は可決されました。

最終日の午前中には、第二食堂で行われた「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会 道の学生決起の集い」（五頁に報告）に参加しました。午後からは、九月十三日に各地域で開催される「道の学生ひのきしんＤＡＹ」に向けての話し合いが行われ、「年祭、大会へ喜びと感謝をつないで」をテーマに、参加者五千名を目標に取り組むことを確認しました。

閉会式では、学生担当委員会秋岡副委員長より、「教区・直属、縦と横がしっかりと手を取り合い、より大勢の人に声がかかる学生会となるよう、期待しています」と閉会の挨拶があり、最後は日水委員長より「これからも我々がつながり合って、励まし合いながら頑張っていこう」と結びました。

天理教学生会では、教祖百三十年祭に向かって、自分たちにできるおたすけの実践として、たくさんの人に声をかけ続け、第五十二期学生会の集大成である「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」には、一万人を超える学生でおぢばに帰り集えるよう全力で取り組みます。また、様々な理由から、今回の委員総会に参加できなかった教区・直属学生会とも密に連絡を取り、活動を進めさせていただく予定です。

この旬に学生層育成の御用を与えられた我々は、この御用が将来の大きな種まきになると信じて、学生たちが道の次代を担うようぼくへと意欲を持って育っていけるよう、学生会活動への支援、さらには学生一人ひとりの丹精に全力で取り組ませていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会
巡回報告（北海道教区・岐美大教会）

●北海道教区

五月一日晴天のご守護のもと、吉川委員長をお迎えし、教区巡回を受けさせていただきました。学生会活動及び巡回のＤＶＤに引き続き、吉川委員長から、巡回の趣旨説明とご自身の学生会時代の思い出や当時の学担とのかかわりなど熱く語っていただきました。

その後、ねりあいにうつり、十年前の大会の様子や支部活動など思い出を語り合いながら、今回の大会に向けて思いを馳せました。

さて、支部委員長会議の席上、次代を担うお道を牽引する人材を丹精するためにも、一人でも多くの学生におぢばがえりをしてもらえるようつとめさせていただくことに主眼をおき、会活動の更なる勢いを加速させるため、重点項目を定めて、支部巡回を行うことを発表しました。

今回、おぢばの風をいただきその風を追い風として、しっかり大会に向けて動員をはかり、年祭仕上げの年、教祖年祭に向けて実践してきた、おたすけの勢いを持って活動を推進していきたいと思います。巡回有難うございました。

○重点項目

・立教百七十九年「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」に向けての動員目標。

全教会からの参加を目指し、教区学生会として千名の仲間とおぢばに帰り集う事を心定め。

・学生の把握と丹精

「支部学生名簿」の作成。「学修」「まなびば」「学生ひのきしんデー」などの参加を促し、青年会、女子青年活動への繋がりを持つ。また学生への声掛けの一助として『Happist』の活用促進。

・学生会タイム

学生自身の声で支部管内学生に学生会の「楽しさ」と「喜び」を知ってもらい活動を通して「お道」の素晴らしさを感じてもらう。

北海道教区学生担当委員長　和田与志男

●岐美大教会

五月五日、岐美大教会信者詰所において、「教祖百三十年祭学生おぢばがえり大会」に向けての巡回が行われた。当日は、学生二十一名、担当委員九名、合計三十名が参加した。今回は、大教会につながる、おやさと管内の学生のつどいも合わせて行われた。第一部では、本部学生担当委員より挨拶、大会に向けてのＤＶＤ上映、大会の趣旨説明及び動員のお願い、また天理教学生会運営委員会より大会の動員に向けてのお願いをさせていただいた。

その後、会場を分けて、学生は交流会を行ない、担当委員は、第二部として、練り合いを行った。十年前に行われた「教祖百二十年祭学生おぢばがえり大会」を経験した担当者からは、前大会の際に取り組んだ流れについて説明があり、また、今大会の動員を考えていく上で出てくるであろう課題について、それを踏まえて今後の動員に向けての取組みについて話し合われた。

岐美大教会では、担当委員長を中心に、担当委員が一丸となって進むべく協力体制を整え、今後大会に向け具体的な動きを展開し、参加目標人数を百五十名と定めている。

天理教学生担当委員会　出向委員　豊田章宏

教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会
道の学生決起の集い　開催報告

五月五日午前十時、本部第二食堂を会場に、「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会 道の学生決起の集い」を開催しました。

会場に集まったのは、「学生会委員総会」（三頁に報告）参加者を含む、学生二百四十四名。初めに司会から「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」の趣旨説明があり、続いて、学生担当委員会吉川委員長よりお話がありました。吉川委員長は、来年三月二十八日に開催される「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」に向けて、動員目標を達成するために三つのことを心に置いてほしいと述べ、①おたすけの実践を心がけよう、②共に活動してくれるスタッフを増やそう、③学生担当の先生方にも動いてもらえるように報告・相談・連絡を徹底しよう、と促しました。

そして、「私たち学生担当委員会も本気になってやります。学生の皆さんも教区・直属で掲げる目標に向かって精一杯に取り組んでいただきたい。その地道な真実の集まりが、参加者一万人というこれまでにない結果につながる」と熱を込めて話をしました。

続いて、福島教区学生会前委員長橋本知恵さん、東愛学生会前委員長河野勇人君より、体験発表がありました。二人は、それぞれの立場から今年の春学に全力で取り組む中で得た喜びや、感じた親神様のご守護を、時には感激に声を詰まらせながら語りかけました。参加者たちも二人の話にじっくりと耳を傾け、涙を流す学生も多く見られました。

最後に、大会実行委員長日水信悟君が、自らのたすけられた体験をもとに、信仰している喜びを友に伝え、おたすけを実践をしていく決意を述べ、「この後のおつとめで、自分にもおたすけさせてくださいと神様にお願いしよう。今日から自分はおたすけさせていただきますと親神様にお誓いしよう」と訴えました。

その後、会場では「教祖百三十年祭の歌」と「希望の花」を斉唱。東礼拝場に移動し、今後の誓いを込めて「定時のおつとめ」に全員で参拝し、決起の集いは終了しました。

五月一日より教区・直属での巡回が始まり、五月二十五日には「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会 担当者決起の集い」を開催します。学生担当委員会としましても、学生の動きを後押しするだけではなく、自らに与えられたおたすけとして、学生への声がけに取り組ませていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

第五十二期天理教学生会活動方針

道の次代を担う　ようぼくへと成人しよう！

一、教祖のひながたを学び、教えを実践しよう

○教会につながり、つなげよう

○日々親心を探し、明るく勇んでおたすけを実践しよう

一、会員の倍増

○スタッフ研修会の充実

○一人ひとりと心をつなごう

道の次代を担う　ようぼくへと成人しよう

諭達第三号の中で、「この限りない親心に仕切ってお応えすることこそ、教祖の年祭を勤める意義である。」とお示しくだされています。年祭活動仕上げの年に活動させていただく今期は、何よりも教祖の親心にお応えすることを目指します。教祖の親心に応えるとは、親神様の思召にそった姿へと成人していくことです。多くの先人の方が繋いでくださったこの道を世界中に伝え、陽気ぐらし世界実現のために、将来を見据えて歩んでいきましょう。

教祖百三十年祭、そして「教祖百三十年祭学生おぢばがえり大会」に向けてのラストスパート、親に喜んでもらいたいという一心で取り組んでいきましょう。

一、教祖のひながたを学び、教えを実践しよう

立教百七十八年春の学生おぢばがえり式典で真柱様は「成人とは、教祖の教えを実践して暮らし、その日々の積み重ねで、親神様の思召に近づいていくことであります。」とお話しくださいました。成人するためには、教祖のひながたを学び、日々教えを実践することが必要です。

○教会につながり、つなげよう

教会は私たち一人ひとりの信仰の拠点であり、陽気ぐらしの手本を示す場所です。さらには親神様の思召を伝え広げる「たすけの道場」とも言われています。教会につながることで、親神様、教祖とつながることができ、その教えを学ぶことができます。おたすけのできるようぼくへと成人するために、所属教会の一員であることを自覚し、日々心をつなぎましょう。

まずは自分がつながりを求め、周りの仲間も教会につながることができるように努力しましょう。

○日々親心を探し、明るく勇んでおたすけを実践しよう

教祖は、どんな中もその出来事の根底にある親神様の思召を説き明かし、周りの人々を勇ましし励まして通られました。私たちも、日々起こってくる出来事を通して親神様が人だすけを促されていると受け止め、明るく勇んでおたすけを実践しましょう。そうすることで親神様の思召を理解することができ、おたすけのできるようぼくへと成人することができます。

一、会員の倍増

教祖の年祭は、たすけの旬であり、不思議現る旬とも言われています。だからこそこの旬に、たくさんの人にお道を伝え広げていくために、会員の倍増を目指します。

学生活動に参加してもらえるよう声をかけることは、学生にできる立派なおたすけです。また、目標を掲げることで、大きく成長することができます。したがって、大会参加者一万人に向けて一つ一つの行事の参加者も例年の倍の人数を目指します。簡単な目標ではありませんが、諦めずに最後まで声をかけ続け、教祖にお喜びいただきましょう。

○スタッフ研修会の充実

たくさんの人にお道を伝えるために、まずはスタッフが学生会の目的である会則第三条についてしっかりと考える機会が必要です。また学生が集まり練り合いを行う中で、仲間の存在を感じることや気持ちを高め合うことができます。大勢の人につながってもらうために、受け入れる器を作る努力をしましょう。

○一人ひとりと心をつなごう

動員活動や行事中、また行事後に、一人ひとりと心をつなぐことを心がけることで、大勢の仲間が学生活動に参加してくれます。

動員活動の際や行事中には、一回一回真心を込めて積極的につながりを求めましょう。また行事後には参加してくれた感謝の気持ちを伝えるなど、次につながってくれるよう声をかけましょう。

会員、スタッフ倍増のためにたくさん声をかける中にも、私たちが出会う一人ひとりと心をつなぐことを意識しましょう。

「まなびば」開催会場一覧　《６月開催分》

教区	開催日時	場所	担当者	電話番号
山形	6月6日13時～7日15時	教務支庁		
茨城	6月6日13時～7日16時	教務支庁		
長野	6月6日12時～7日15時	教務支庁		
京都	6月6日10時30分～7日15時	西陣大教会		
兵庫 (阪神ブロック)	6月6日13時～7日15時	撫順分教会		
奈良 (※1下記参照)	6月6日13時30分～7日15時	明和大教会		
岡山	6月6日11時30分～7日14時30分	教務支庁		
宮崎	6月6日15時～7日14時	教務支庁		
埼玉	6月13日15時～14日15時	上瑞穂分教会		
福井	6月13日13時～14日15時30分	教務支庁		
愛知 (中部ブロック)	6月13日13時～14日14時	美張分教会		
三重	6月13日13時～14日15時	教務支庁		
奈良 (※2下記参照)	6月13日13時30分～14日15時	郡山詰所		
大分	6月13日13時～14日14時	教務支庁		
栃木	6月20日15時～21日12時	教務支庁		

☆実施計画書は２ヵ月前までにご提出ください。

※1桜井、宇陀、東吉野支部
※2天理、山辺、奈良、南奈良支部

attention!

別席のすすめ　1部5円

年祭活動仕上げの年、道につながる学生が時代を担うようぼくへと成人させていただけるよう、この旬におぢばへ帰り、別席を運んでいただきたいとの思いから、学生担当委員会ではこのたび、「別席のすすめ」をリニューアルし発行いたしました。どうぞご活用ください。

立教１７８年 こどもおぢばがえり 学生ひのきしん隊

≪ 募 集 要 項 ≫

目　　的　ぢばへの伏せこみ
内　　容　わかぎおぢばひのきしんカウンセラー、廻廊ひのきしん受け入れなど
対　　象　高校生・大学生・短期大学生・大学院生・専門学校生
期　　間　前期　　7月25日（土）～7月31日（金）
　　後期　　7月30日（木）～8月 5日（水）
　　特別期間　7月31日（金）～8月 3日（月）
　　※ 前期、後期に参加できない方も、ぜひ特別期間にご参加ください。
受付時間　前期・後期・特別期間とも午後1時（予定）
解散時間　前期　午前11時、後期　午後1時、特別期間　午後5時（いずれも予定）
募集定員　前期　70名、後期　70名、特別期間　50名
参 加 費　前期・後期1,000円、全期間2,000円、特別期間1,000円
　　※ いずれも当日お持ちください。
宿　　舎　旧大森町詰所（予定）
主　　催　天理教学生会
後　　援　天理教学生担当委員会

≪ 申 し 込 み ・ 問 い 合 わ せ 先 ≫

天理市守目堂町213-4　おやさとやかた真南棟3階　天理教学生会
（郵便）　〒 632-8790　天理郵便局私書箱1号　天理教学生会
（電話）　0743-63-1511（内線5820）
　　※19時以降は0743-63-2489
（FAX）　0743-62-5780
詳しくは、天理教学生会 website に掲載しておりますので、そちらを御覧ください。
website URL: http://tsa.tenrikyo.or.jp

「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」について

◆教区・直属巡回日追加・変更一覧

教区	開催日
和歌山	8月28日
千葉	9月4日
茨城	8月30日
高知	11月2日

直属	開催日	直属	開催日
本部	9月8日	南紀	5月22日
水口	6月14日	錦江	9月5日
名京	8月23日	仙臺	8月30日
飾東	6月22日	本保	9月22日
高岡	12月19日	城山	9月26日
川之江	11月10日	夕張	6月15日
中野	10月3日	加古	9月23日

attention!

※以前の掲載より追加・変更のあった教区・直属

学生生徒修養会　高校の部　募集要項

期　間	平成27年8月9日（日）～8月15日（土）
受講対象	高等学校に在学し、全期間受講できる者。（親里管内の高等学校は天理高等学校第１部の自宅通学生に限り受講可能です） ※受講回数によって１回生、２回生、３回生に分かれます。
募集人員	2,000名（男子 1,000名、女子 1,000名）
内　容	☆レクチャー　☆ひのきしん　☆おてふり・鳴物練習　☆神名流し（3年生のみ） ☆レクリエーション　☆グループワーク　☆感話大会　☆みんなのつどい など ※期間中に別席を１席運べる日を設けます。
受付日時	8月 9日(日)　午前9時30分から10時 各詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
解散日時	8月15日(土)　午前10時30分（予定）
受講御供	8,000円　各詰所(各直属学生担当委員会)に納めてください。

申し込み

申込方法　下記書類を整え、最上級教会長を経て、学生担当委員会事務局に申し込んでください。
- 受講願書　１通
- 返信用封筒　１枚（保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、82円切手を貼付ください）

平成27年 5月25日(月)～7月25日(土)まで（郵送の場合も7月25日必着）
※事務処理の関係上、願書はなるべく7月18日までに提出してください。

※受講願書は各学生担当委員会、各教務支庁にあります。
※受講にあたっての詳細及び必要事項は書面にて7月10日以降、随時保護者宛てに郵送いたします。
また、7月10日以降はTSA websiteでも詳細、必要事項の確認ができますのでご利用ください。

問い合わせ　TEL 0743-63-2489（学生担当委員会事務局直通）
FAX 0743-62-5780

青空

私は、学生生徒修養会の運営に関わらせていただく中で、見えないところで動いてくださる、多くの方々への感謝を学んだように思います。

私は主に物品の管理をしています。各宿舎や、期間中のプログラムに必要な物の把握、事前の準備をするのですが、物品一つ一つを数えながら、「いったい何のために…」などと思ってしまうこともあります。しかし一方では、学生の表情すら見ることのできないところでコツコツと準備をする人達、また学生を送り出す教会長さん、親御さんがいるわけです。そこへ思いを巡らせた時、近くで学生と関わる私がこんな姿勢ではいけないと反省すると共に、見えないところで動いてくださる多くの方々への感謝の気持ちを学ばせていただきました。

学生生徒修養会がここまで続いているのも、そうした多くの方々の思いを神様がお受け取りくださっている証だと思います。

ここで学んだ感謝の心を忘れることなく、今後も道の御用の上に尽力させていただきたいと思います。

学生生徒修養会部局員　伊藤 元

お知らせ

六月例会

- 期日　立教178年6月25日
- 時間　15時半受付　16時開始
- 場所　教庁4階講堂

学生層育成者講習会 日程・会場案内

【教区】

- 岩手　6月2日10時～　教務支庁
- 石川　6月2日13時30分～　教務支庁
- 福岡　6月4日11時～　教務支庁
- 岐阜　6月30日9時45分～　教務支庁
- 島根　6月30日11時～　教務支庁

【直属】

- 本芝　6月5日14時30分～　大教会
- 深川　6月13日14時～　大教会
- 高知　6月18日12時～　大教会
- 玉島　6月20日12時～　大教会
- 越知　6月20日11時30分～　大教会

香川	6月21日11時30分～	大教会	詰所
山陽	6月21日11時30分～	大教会	
名張	6月21日12時～	分教会	
名京	6月22日12時～	大教会	
名東	6月22日11時30分～	大教会	
飾東	6月22日11時30分～	大教会	
東愛	6月22日11時30分～	大教会	
日野	6月22日12時～	大教会	
立野堀	6月22日12時～	大教会	
西海	6月22日12時～	大教会	
南	6月22日14時30分～	大教会	
鹿島	6月22日11時30分～	大教会	
郡山	6月23日10時30分～	大教会	
兵神	6月23日10時～	大教会	
西宮	6月23日12時～	大教会	
蒲生	6月23日11時30分～	大教会	
豊岡	6月23日11時30分～	大教会	
津	6月23日13時20分～	大教会	
中野	6月23日10時～	大教会	
岡山	6月23日12時15分～	大教会	
山陰	6月24日11時30分～	大教会	
平安	6月25日9時30分～	大教会	

Happist７月号　予告

［特集］
CAMP!!　インタビュー　日本バーベキュー協会会長　下城 民夫

連載
- 教理コーナー　希望の灯～おやさまのひながたに学ぶ～　平野 知三（本部准員）
- 信仰エッセー　明日の地図ひろげて　安藤 くみ子（本愛大教会長夫人）
- 輝く生き方見つけよう　Key Person　作曲家　青島 広志
- 人生を彩る１冊をあなたに。　虹色のしおり　三濱 靖和（天理図書館主事）
- 東馬場先生と学ぼう！　Happistニュース　東馬場 郁生（天理大学国際学部教授）

明日につながる学生マガジン Happist 7

個人宅に直接〈Happist〉が届く個人購読も行っております。詳細は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

※内容は一部変更になる場合があります。